

(ES=0.33), 日常生活満足度 (ES=0.22) において小程度の改善がみられた。一方で, 痛みでは大幅な悪化がみられた (ES=0.89)。

5. 新たな効果指標の開発

探索的因子分析の結果, 4因子14項目が抽出された。因子名を, 「服薬治療における医療従事者との協働関係」, 「服薬に関する知識情報活用度」, 「服薬に対する納得・実行度」, 「服薬遵守度」とした。それぞれ下位尺度のCronbach's α は0.92, 0.80, 0.55, 0.74で尺度全体は0.84であった。累積寄与率は56.6%であった。確認的因子分析の適合度は, $\chi^2/df=4.70$, CFI=0.925, RMSEA=0.047であった。

次に「服薬コンプライアンス尺度 (DCS)」との相関係数は, 「服薬に関する知識情報活用度」とDCSのサブスケール「薬物知識の獲得」で0.602($p<0.01$), 「服薬遵守度」と「服薬コンプライアンス (DCS)」で0.433($p<0.01$)であった。

服薬アドヒアランスと関連がみられた要因は, 全合計点で女性($p<0.001$), 20代と比べて30代, 既婚(いずれも $p<0.01$), 1型糖尿病, リウマチ性疾患群(いずれも $p<0.01$)が有意に高く, 高卒以下($p<0.05$), 2型糖尿病($p<0.01$)が有意に低かった。「服薬に関する知識情報活用度」では, 女性($p<0.001$), リウマチ性疾患群($p<0.001$)が有意に高く, 高卒以下($p<0.05$), 2型糖尿病($p<0.01$), 高血圧・高脂血症群($p<0.001$)が有意に低かった。「服薬に対する納得・生活調和度」では, 既婚($p<0.01$), 1型糖尿病($p<0.001$)で有意に高く, 高卒以下($p<0.001$), 2型糖尿病($p<0.05$)が有意に低かった。「服薬遵守度」では, 既婚($p<0.01$)

が有意に高く, 2型糖尿病($p<0.001$)が有意に低かった。

D. 考察

本研究では CDSMP の効果をより詳細に検討することおよび今後のプログラム評価に有用な効果指標の開発を目的として, (1) 対照群を設けたプログラム効果の検討, (2) プログラムの長期的な効果の検討, (3) プログラム効果の疾患別の検討, (4) プログラム効果の疾患間の比較, (5) 服薬アドヒアランス尺度の開発を行った。以下それぞれ考察する。

1. プログラムを受講しない対照群を設けたデザインによる CDSMP の効果の検討

ここでは, 効果指標を健康問題に対処する自己効力感, セルフマネジメント行動, 健康状態に分類し, CDSMP 受講の効果为非無作為化比較試験デザインによって検討した。

このうち, 健康問題に対処する自己効力感, セルフマネジメント行動のうち症状への認知的対処法実行度で有意な改善がみられた。自己効力感が向上したことは, CDSMP が取り入れている自己効力感を向上させるためのプログラム内容が機能していることを示唆するものであり, CDSMP が主に実施されている欧米諸国と文化的に異なると考えられる我が国においても CDSMP で用いられている自己効力感を向上させるための手法が有用であることが示唆された。

症状への認知的対処法の実行度は先行研究で有意な改善が認められたことが報告されており, 本研究もこれらの知見を支持するものとなった。また, 症状への認知的対処法の実

行度は本研究で効果指標とした行動指標の中でも顕著に改善が見られており、受講者にとって手軽に使用できる自己管理技術であることがうかがえた。

次に医師とのコミュニケーションに対する効果は、本研究では改善がみられなかった。この理由として、本研究における CDSMP 受講者の疾患発症からの経過年数は平均 14.6 年と比較的長く、すでに医療者と良好な関係が築けている可能性や、現在の診療場面では、医師と十分なコミュニケーションを取る時間が確保することが難しいことが考えられる。

また、ストレッチ・筋力トレーニング実行時間、有酸素運動の実施時間も、本研究では有意な改善としては検出できなかった。この理由としては対象者の持つ疾患の分布が海外の先行研究と異なることや、生活習慣や文化的背景、環境の違いが影響した可能性が考えられる。運動に関するプログラム内容は基本的に欧米で行われている CDSMP のものを使用し、日本での状況に合わせたものにはなっていなかった可能性が考えられる。今後は日本の状況にあった内容を検討することが必要であると考えられる。

次に、健康状態においてはすべての指標で有意な改善はみられず、抑うつにおいて改善傾向がみられるにとどまった。これらの健康状態は CDSMP の効果発現メカニズムの中では自己効力感やセルフマネジメント行動の改善を介して間接的に変化すると考えられる遠位のアウトカムであり、変化が捉えられるまでに時間差がある可能性がある。そのため、本研究の追跡期間では変化を捉えきれなかった可能性があり、今後より長期間の追跡を行って検討する必要があると考えられた。

2. プログラムの長期的な効果の検討

プログラム受講 6 ヶ月後の時点では、健康状態の自己評価、健康問題についての悩み、不安、運動時間、症状への認知的対処法実行度、医師とのコミュニケーション、健康問題に対処する自己効力感、ストレス対処能力 Sense of Coherence、日常生活満足度において肯定的な変化がみられていた。このうち、健康状態の自己評価、健康問題についての悩み、運動時間、症状への認知的対処法実行度、健康問題に対処する自己効力感における変化は 6 ヶ月後時点に比べ小さくなっていったもののプログラム開始 12 ヶ月後も持続していた。これらの結果は、海外の先行研究[13]と概ね一致していた。プログラムの効果が時間の経過に伴って減じていくことは避けられないことであり、より長期的に患者をサポートしていくために、今後は本研究のデータを活かして追加のプログラムを提供するなどの支援が必要であると考えられた。

3. プログラムの効果の疾患別の検討

線維筋痛症患者における効果指標の変化の検討では、健康状態についての悩み、日常動作制限度、症状への認知的対処法実行度においては改善傾向がみられた一方で、痛み、疲労については改善傾向がみられなかった。量的な解析を行えるデータが少なかったため、限界はあるものの、FMS 患者にとっては CDSMP 受講は、心理社会的な状態の改善に有用である可能性が考えられた。

こうした傾向は、面接調査でより詳細に明らかになった。プログラムへの参加を通じて、理解されにくい痛みの体験を共有す

るなど、個人誌の再構築が起きていることが明らかとなった。また身体の声を聞くなど、新たな痛みの解釈の形成もみられたが、他覚的な改善や悪化の指標がない FMS では特に重要な変化であると考えられた。

次に一型糖尿病患者における CDSMP の効果の検討では、症状への認知的対処法実行度および医師とのコミュニケーションにおいて有意な改善がみられ、健康状態の自己評価および抑うつにおいて改善傾向がみられた。これらの結果から、一型糖尿病患者にとって、CDSMP は医師と協働関係を築く点で有益であること、治療に対する負担感情の軽減などに有効であることが示唆された。

一方で、いずれの疾患における CDSMP の効果の検討でも対象者数が少なく、効果を検出するのに十分な検出力が得られなかった可能性がある。そのため、今後はより多くの対象者を確保し、プログラムの効果を検討することが必要であると考えられる。また、本研究では 2007 年度までのデータから CDSMP の効果が大きいと考えられた線維筋痛症と一型糖尿病患者に絞って検討を行ったが、今後はより多くの種類の疾患において詳細な効果の検討を行っていく必要があると考えられた。

4. プログラムの効果の疾患間の比較

ここでは、重複疾患を持たない患者の疾患を、リウマチ性疾患、糖尿病、アレルギー性疾患、循環器疾患、膠原病の 5 種類に分類し、CDSMP の効果を疾患間で比較した。

健康状態の自己評価、健康状態についての悩み、健康問題に対処する自己効力感などの心理社会的状態が改善するという点に

ついては疾患間で共通点がみられた。その中で、リウマチ性疾患、糖尿病患者においては改善している指標が多く、これらの患者にとって CDSMP は特に有用である可能性が示唆された。一方でアレルギー性疾患においては受講前後で改善が見られた指標が少なく、プログラム内容がアレルギー性疾患患者に適合していない可能性も考えられた。今後、面接調査等でこれらの効果が低かった患者のニーズを把握していく必要があると考えられる。

5. 新たな効果指標の開発

ここでは、CDSMP の新たな効果指標として、「患者の服薬行動が、医療従事者の提案した治療方法に同意し、一致する度合い」である服薬アドヒアランスを測定する尺度の開発および妥当性・信頼性の検討を行った。

因子妥当性については、想定した 4 つの下位概念構造を示したものの、内容的妥当性と合わせてワーディングなどの再検討を要する項目が考えられた。また、尺度は高い内的整合性を示したが、「服薬に対する納得・実行度」は、検討の余地があると考えられた。今後は、内容妥当性、因子妥当性の観点から下位概念ごとの項目数の見直しにより因子構造の適合度がより良好になることが考えられた。また、「服薬に対する納得・実行度」等の下位項目のより適切なワーディング等を検討することなど一部改良していく必要があると考えられた。

また、既存の服薬コンプライアンス尺度との相関は十分な値が得られ、併存妥当性は、概ね確保できたと考えられた。

次に、服薬アドヒアランスとの関連が高い要因として、配偶者の有無や学歴が挙げられた。これはサポートが受けられる環境や、より学歴が高い方が服薬の必要性について認識でき服薬行動につなげることができ、アドヒアランス得点が高くなったと考えられる。

疾患別では、1型糖尿病、リウマチ性疾患群のように薬の使用が身体症状に影響しやすい場合に高く、2型糖尿病、高血圧・高脂血症群のように自覚症状に乏しく、服薬の必要性について感じられにくい場合に服薬アドヒアランスが低いことが考えられた。これらの結果は先行研究と概ね一致し、このことから、構成概念妥当性も概ね確保できたと考えられる。

CDSMP では服薬についての内容も含まれており、これらの内容が受講者の服薬行動や服薬に対する意識に影響をあたえるかを把握するために本研究で開発した指標は有用であると考えられる。

E. 結論

本研究では CDSMP の効果をより詳細に検討することおよび今後のプログラム評価に有用な効果指標の開発を目的として、(1) 対照群を設けたプログラム効果の検討、(2) プログラムの長期的な効果の検討、(3) プログラム効果の疾患別の検討、(4) プログラム効果の疾患間の比較、(5) 服薬アドヒアランス尺度の開発を行った。その結果、以下のことが明らかになった。

1. 受講者の疾患を限定せずプログラムの効果を検討した結果、CDSMP を受講することによって、健康問題に対処する

自己効力感、症状への認知的対処法の実行度が向上することが示唆された。

2. プログラム受講後の健康状態の自己評価、健康問題についての悩み、運動時間、症状への認知的対処法実行度、健康問題に対処する自己効力感における肯定的変化は 6 ヶ月後時点に比べ小さくなっていったもののプログラム開始 12 カ月後も持続していた。
3. 線維筋痛症患者にとっては CDSMP 受講は、心理社会的な状態の改善に有用である可能性が考えられた。特にプログラムへの参加を通じて、理解されにくい痛みの体験を共有するなど、個人誌の再構築が起きていることが明らかとなった。
4. 一型糖尿病患者にとって、CDSMP は医師と協働関係を築く点で有益であること、治療に対する負担感情の軽減などに有効であることが示唆された。
5. リウマチ性疾患、糖尿病患者においては改善している指標が多く、これらの患者にとって CDSMP は特に有用である可能性が示唆された。
6. 「患者の服薬行動が、医療従事者の提案した治療方法に同意し、一致する度合い」である服薬アドヒアランスを測定する尺度の信頼性・妥当性は概ね確保され、今後の CDSMP の効果指標として有用である可能性が示唆された。

F. 研究発表

1. 論文発表

Yukawa K, Yamazaki Y, Yonekura Y, Togari T, Abbott FK, Homma M, Park M, Kagawa Y. Effectiveness of Chronic Disease

Self-management Program in Japan: Preliminary report of a longitudinal study. *Nursing & Health Sciences*.12(4):456-463, 2010

2.学会発表

平成 20 年度

- ・ 湯川慶子, 朴敏廷, 山崎喜比古, 戸ヶ里泰典, 米倉佑貴, 小野万里子, 本間三恵子, 沖野露美, 日本における慢性疾患セルフマネジメントプログラム (CDSMP) が受講者のヘルスアウトカムに及ぼす影響の前後比較デザインによる検討(第 1 報) CDSMP の特徴とヘルスアウトカムの受講前後の変化, 第 17 回日本健康教育学会, 東京, 2008.
- ・ 小野万里子, 湯川慶子, 米倉佑貴, 本間三恵子, 沖野露美, 朴敏廷, 戸ヶ里泰典, 山崎喜比古, 日本における慢性疾患セルフマネジメントプログラム (CDSMP) が受講者のヘルスアウトカムに及ぼす影響の前後比較デザインによる検討(第 2 報) 受講による病ある生活への向き合い方の変化の知覚, 第 17 回日本健康教育学会, 東京, 2008.
- ・ 米倉佑貴, 湯川慶子, 沖野露美, 小野万里子, 本間三恵子, 朴敏廷, 戸ヶ里泰典, 山崎喜比古, 日本における慢性疾患セルフマネジメントプログラム (CDSMP) が受講者のヘルスアウトカムに及ぼす影響の前後比較デザインによる検討(第 3 報) ヘルスアウトカム間の関連と全体的考察, 第 17 回日本健康教育学会, 東京, 2008.
- ・ 湯川慶子, 米倉佑貴, 山崎喜比古, 戸ヶ里泰典, 小野万里子, 本間三恵子,

朴敏廷, 沖野露美, 香川由美, 慢性疾患セルフマネジメントプログラムのアウトカム評価中間報告 (1) 受講前後の比較, 第 67 回日本公衆衛生学会総会, 福岡, 2008.

- ・ 米倉佑貴, 湯川慶子, 山崎喜比古, 戸ヶ里泰典, 小野万里子, 本間三恵子, 朴敏廷, 沖野露美, 香川由美, 慢性疾患セルフマネジメントプログラムのアウトカム評価中間報告 (2) 変化機序の検討, 第 67 回日本公衆衛生学会総会, 福岡, 2008.

平成 21 年度

- ・ 本間三恵子, 湯川慶子, 米倉佑貴, 沖野露美, 小野万里子, 朴敏廷, 戸ヶ里泰典, 山崎喜比古, 慢性疾患自己管理プログラム (CDSMP) にみるパラダイムシフト - 受講者の病ある生活への向き合い方に及ぼす影響から -, 第 34 回日本保健医療社会学会大会, 東京, 2008.
- ・ Park MJ, Yonekura Y, Homma M, Kagawa Y, Ueno H, Yamazaki Y, One-year Follow-up after a Chronic Disease Self-Management Program (CDSMP) in Japan. 第 18 回日本健康教育学会, 東京, 2009
- ・ 本間三恵子, 米倉佑貴, 湯川慶子, 朴敏廷, 香川由美, 上野治香, 山崎喜比古, 慢性疾患自己管理プログラム (CDSMP) におけるアウトカムの経時的変化の評価研究 - プログラム提供に関わる諸要因を考慮したモデルを用いて -. 第 18 回日本健康教育学会学術大会, 東京, 2009.
- ・ Park MJ, Yonekura Y, Homma M, Kagawa

- Y, Ueno H, Yamazaki Y. One-year follow-up after a Chronic Disease Self-Management Program in Japan. The 1st Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education, 千葉, 2009.
- Homma M, Yukawa K, Yonekura Y, Park M, Yamazaki Y. Fibromyalgia Patients in the Chronic Disease Self-Management Program - Qualitative Study of Transformation and Reconstruction of Identity, The First Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education, 千葉, 2009.
 - Kagawa Y, Yukawa K, Yonekura Y, Park M, Homma M, Yamazaki Y. Evaluation of a Chronic Disease Self-Management Program in Japan using Before/After Comparison -Focus on Participant's Perceived Change -. The First Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education, 千葉, 2009.
 - Yonekura Y, Yukawa K, Kuchii T, Tsuno Y, Abbott FK, Yamazaki Y. Effects of the Chronic Disease Self-Management Program in Japan — A Qualitative Analysis. The First Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education, 千葉, 2009.
 - 山崎喜比古, 坂野純子, 清水由香, 望月美栄子, 当事者主導の慢性疾患セルフマネジメントプログラムの「病と生きる力」形成への新しい可能性発見, 第 57 回日本社会福祉学会全国大会, 東京, 2009.
 - 本間三恵子, 朴敏廷, 山崎喜比古, 米倉佑貴, 香川由美, 上野治香, 湯川慶子, 慢性疾患セルフマネジメントプログラムの評価研究 (1) 241 名の 6 ヶ月間追跡, 第 68 回日本公衆衛生学会総会, 奈良, 2009.
 - 朴敏廷, 山崎喜比古, 米倉佑貴, 本間三恵子, 香川由美, 上野治香, 慢性疾患セルフマネジメントプログラムの評価研究(2)183 人の 1 年間追跡, 第 68 回日本公衆衛生学会総会, 奈良, 2009.
 - 山崎喜比古, 朴敏廷, 米倉佑貴, 戸ヶ里泰典, 本間三恵子, 湯川慶子, 香川由美, 上野治香, 慢性疾患セルフマネジメントプログラムの評価研究 SOC 向上とそのメカニズム, 第 68 回日本公衆衛生学会総会, 奈良, 2009.
- 平成 22 年度
- Park MJ, Yamazaki Y, Yonekura Y, Homma M, Kagawa Y, Ueno H, Abe S. Diagnosis-related and comorbidity-related effectiveness of the Chronic Disease Self-Management Program in Japan. The Joint Scientific Meeting of the IEA Western Pacific Region and the Japan EA. 埼玉, 2010.
 - Park MJ, Yamazaki Y, Yonekura Y, Yukawa K, Homma M, Kagawa Y, Ueno H. Diagnosis-related effectiveness of a self-management program among adults living with chronic diseases. 第 19 回日本健康教育学会学術大会, 京都, 2010.
 - 米倉佑貴, 山崎喜比古, 香川由美, 朴敏廷, 本間三恵子, 松浦江美, 戸ヶ里泰典, 上野治香. 日本における慢性疾患セルフマネジメントプログラムの効果の非無作為化比較試験による検討 3

- カ月の追跡結果から,第 19 回日本健康教育学会学術大会,京都,2010.
- ・ 上野治香, 山崎喜比古, 米倉佑貴, 朴敏廷, 本間三恵子, 香川由美. 日本の慢性疾患患者を対象とした新しい服薬アドヒアランス尺度の必要性と開発及び信頼性・妥当性の検討. 第 19 回日本健康教育学会学術大会, 京都, 2010.
 - ・ 香川由美, 米倉佑貴, 朴敏廷, 本間三恵子, 上野治香, 山崎喜比古. 日本の成人 1 型糖尿病患者における慢性疾患セルフマネジメントプログラムの有効性の検証 非無作為化比較試験による検証. 第 19 回日本健康教育学会学術大会, 京都, 2010.
 - ・ MJ Park, M. Homma, Y. Yonekura, Y. Kagawa, H. Ueno, Y. Yamazaki. A self-management program for people with chronic diseases in Japan: one-year follow-up. 20th IUHPE world conference on health promotion, Geneva in Switzerland, 2010.
 - ・ MJ Park, M. Homma, Y. Yamazaki. Chronic diseases in Japan: diagnosis-related and comorbidity-related effectiveness of a self-management program. 20th IUHPE world conference on health promotion, Geneva in Switzerland, 2010.
 - ・ MJ Park, Y. Yamazaki, M. Homma, Joseph Green. Chronic diseases and comorbidity: 1-year follow-up after a self-management program in Japan. The International Conference of 4th Asian Congress of Health Psychology. Taipei in Taiwan, 2010.
 - ・ 朴敏廷, 山崎喜比古, 米倉佑貴, 香川由美, 上野治香, 本間三恵子, 慢性疾患自己管理支援プログラムの患者医師とのコミュニケーションに対する効果の検討, 第 69 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2010
 - ・ Park, MJ, Yamazaki Y, Homma M. Diagnosis-related differences in self-management of chronic diseases: before and after an educational program in Japan. 2010 Gold Coast Health and Medical Research Conference, Gold Coast in Australia, 2010.
 - ・ 本間三恵子, 大宮朋子, 阿部桜子, 米倉佑貴, 朴敏廷, 山崎喜比古, 線維筋痛症患者における Biographical Reconstruction とセルフヘルプグループ, 第 36 回日本保健医療社会学会大会, 山口, 2010.
 - ・ Homma M, Yamazaki Y, Park MJ, Delegitimization toward identity re-construction in a self-help group: The case of fibromyalgia patients in Japan. The 17th ISA World Congress of Sociology, Sweden, 2010.
 - ・ 本間三恵子, 大宮朋子, 山崎喜比古, 線維筋痛症患者における病いの説明モデルの変容過程, 第 83 回日本社会学会大会, 名古屋, 2010.
 - ・ 本間三恵子, 阿部桜子, 大宮朋子, 山崎喜比古, 線維筋痛症患者と医療者とのよりよいコミュニケーションに向けて—セルフヘルプグループ参加者の声から, 日本線維筋痛症学会第 2 回学術集会, 東京, 2010.
 - ・ 米倉佑貴, 山崎喜比古, 香川由美, 朴

敏廷, 本間三恵子, 松浦江美, 戸ヶ里泰典, 上野治香. 日本における慢性疾患セルフマネジメントプログラムの効果の検討—6ヶ月追跡調査から, 第69回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2010.

- ・ 香川由美, 山崎喜比古, 米倉佑貴, 朴敏廷, 本間三恵子, 上野治香. 1型糖尿病患者におけるセルフマネジメントプログラムの効果 6ヶ月追跡による検証. 第69回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2010.
- ・ 上野治香, 山崎喜比古, 米倉佑貴, 朴敏廷, 本間三恵子, 香川由美. 日本の慢性疾患患者を対象とした服薬アドヒアランス尺度開発における妥当性と関連要因の検討. 第69回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2010.
- ・ 香川由美, 神内謙至. 慢性疾患セルフマネジメントプログラムの成人1型糖尿病患者における有効性—非無作為化比較試験による検証—. 日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 東京, 2010.

発表予定

- ・ MJ Park, Multimorbidity and patient-doctor communication in self-management of chronic diseases in Japan. Australian Health Promotion Association 20th National Conference, Cairns in Australia, 2011.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得: なし
2. 実用新案登録: なし
3. その他: なし

H. 引用文献

- [1] Lorig KR, Sobel DS, Stewart AL, Brown BW, Bandura A, Ritter P, Gonzalez VM, Laurent DD, Holman HR. Evidence suggesting that a chronic disease self-management program can improve health status while reducing hospitalization - A randomized trial. *Medical Care*.37(1):5-14, 1999.
- [2] Stanford University School of Medicine. Research-Patient Education Department of Medicine Stanford University School of Medicine. 2009; Available at: <http://patienteducation.stanford.edu/organ/cdsites.html>. Accessed 12/25, 2009.
- [3] Fu DB, Hua F, McGowan P, Shen YE, Zhu LH, Yang HQ, Mao JQ, Zhu ST, Ding YM, Wei ZH. Implementation and quantitative evaluation of chronic disease self-management programme in Shanghai, China: randomized controlled trial. *Bulletin of the World Health Organization*.81(3):174-182, 2003.
- [4] Kennedy A, Reeves D, Bower P, Lee V, Middleton E, Richardson G, Gardner C, Gately C, Rogers A. The effectiveness and cost effectiveness of a national lay-led self care support programme for patients with long-term conditions: a pragmatic randomised controlled

- trial. *Journal of Epidemiology and Community Health*.61(3):254-261, 2007.
- [5] Lorig KR, Ritter PL, Gonzalez VM. Hispanic chronic disease self-management - A randomized community-based outcome trial. *Nursing Research*.52(6):361-369, 2003.
- [6] Griffiths C, Motlib J, Azad A, Ramsay J, Eldridge S, Feder G, Khanam R, Munni R, Garrett M, Turner A, Barlow J. Randomised controlled trial of a lay-led self-management programme for Bangladeshi patients with chronic disease. *British Journal of General Practice*.55(520):831-837, 2005.
- [7] Haas M, Group E, Muench J, Kraemer D, Brummel-Smith K, Sharma R, Ganger B, Attwood M, Fairweather A. Chronic disease self-management program for low back pain in the elderly. *Journal of Manipulative and Physiological Therapeutics*.28(4):228-237, 2005.
- [8] Rossi PH, Lipsey MW, Freeman HE. *Evaluation : a systematic approach*. 7th ed. Thousand Oaks, CA: Sage; 2004.
- [9] 平塚祥子, 熊野宏昭, 片山潤, 岸川幸生, 菱沼隆則, 山内祐一, 水柿道直. 服薬コンプライアンス尺度(第1報) : 服薬コンプライアンス尺度の作成. *薬学雑誌* .120(2):224-229 %U <http://ci.nii.ac.jp/naid/11000364880>
- 5/, 2000.
- [10] Rosenbaum PR, Rubin DB. THE CENTRAL ROLE OF THE PROPENSITY SCORE IN OBSERVATIONAL STUDIES FOR CAUSAL EFFECTS. *Biometrika*.70(1):41-55, 1983.
- [11] Creswell JW. *Qualitative inquiry & research design: Choosing among five approaches*: Sage Publications, Inc; 2007.
- [12] Malterud K. Qualitative research: standards, challenges, and guidelines. *The Lancet*.358(9280):483-488, 2001.
- [13] Lorig KR, Ritter P, Stewart AL, Sobel DS, Brown BW, Bandura A, Gonzalez VM, Laurent DD, Holman HR. Chronic disease self-management program - 2-year health status and health care utilization outcomes. *Medical Care*.39(11):1217-1223, 2001.

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
山崎喜比古・戸ヶ里泰典	SOC(sense of coherence)を高める介入方策の開発に向けて	看護研究	43巻2号	161-172	2010
Yukawa K, Yamazaki Y, Yonekura Y, Togari T, Abbott FK, Homma M, Park M, Kagawa Y.	Effectiveness of Chronic Disease Self-management Program in Japan: Preliminary report of a longitudinal study.	Nursing & Health Sciences	12(4)	456-463	2010

